

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870900192
法人名	医療法人 康仁会
事業所名	グループホーム桃太郎
所在地	愛媛県四国中央市中曽根町994番地
自己評価作成日	平成28年6月3日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年6月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

緑に囲まれた自然あふれるホームから市内や瀬戸内海が見え、海に沈む夕日がきれいです。開設当初から一緒に暮らす愛犬ハナに癒され、いつも笑顔があふれアットホームな雰囲気です。併設施設には看護師常駐、常駐ではないが医師もあり、安心した生活を送って頂いています。母体病院が近くにあり、訪問看護ステーションにしおかとも契約しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

玄関前にはアジサイの花が咲いており、玄関にも生けていた。居間には神棚があり、毎朝ご飯を供え、朝食前に全員で手を合わせている。犬を飼っているが、食事は別室に連れて行っていた。廊下、浴室、脱衣場、トイレには手すりを付けて、利用者が自分の力を使って移動できるようにしている。
 昼食の準備時に、盛り付けを担当してくれた利用者に「ありがとう」と笑顔でお礼を伝える職員の様子が見られた。又、裁縫が得意な方が、縫い物を担当してくれている。月2回の「喫茶の日」には、コーヒー、生姜湯、ホットミルク、緑茶の中から利用者の好みの物を選んで楽しめるよう支援している。毛染めの希望があれば、家族にヘアカラー剤を購入してもらい、職員が支援している。
 家族来訪時、利用者の暮らしの様子等を報告して、要望等を聞き取っている。又、毎月、「桃太郎だより」と、利用者の様子を記した写真付きの「健康通信」を送付している。年1回の家族会は、食事しながら話し合いを行っている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名

医療法人 康仁会

(ユニット名)

グループホーム桃太郎

記入者(管理者)

氏名

藤田 昌代

評価完了日

平成28年6月3日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念と目標を提示し入居者の方が我が家で暮らしていた頃と近い暮らしが出来る様に支援している。日々の申し送りや月1回のカンファレンスの際に話し合い実践につなげている。新規入居や見学に来られた際に家族の方に伝えている。	
			(外部評価) 理念を「安心・安全・楽しい我が家」とつくり、玄関や廊下に掲示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 自治会活動の少ない地区にて、ご近所の方とは洗濯物を干したり散歩、日光浴の際にあいさつや会話をしながらつながりを持つようにしている。ボランティアの方を招いたり、併設施設で行われている誕生会や盆踊り行事に参加して多くの交流が持てるようにしている。	利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるように、利用者が地域活動や行事へ参加できるような取り組みもすすめてほしい。
			(外部評価) 近所の方とは、散歩時の挨拶や併設施設のイベント時に交流している。月1回、地域ボランティアの訪問があり、ギター演奏を聞いたり一緒に歌う等して交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議にて勉強会を設けて、案内状なども、地域の方には回覧版にてお知らせしている。残念な事に、地域の方の積極的な参加は得られないが今後も続けていきたい。散歩などで入居者と地域の方がふれあう機会を作り認知症の方々の理解を得られる様にしていきたいとも思う。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	
			グループ内の管理栄養士やフィットネス職員の協力を得て、興味が持てる様な内容を考え、定期的開催している。参加している家人からの質問などの意見や、入居者の反応などを見てサービス向上に活かしている。	
			(外部評価)	
			会議は、居間で行っており、利用者、家族、市職員、民生委員の参加がある。事業所から行事報告を行い、消防訓練や体操を行ったり、栄養士からのお話、市の出前講座等を行っている。	事業所サービスについての意見や要望を聞けるような取組みも工夫してはどうだろうか。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価)	
			電話をしたり直接出向き、相談・報告を行っている。市の方より、運営推進会に参加してくれる為、その際にも相談などさせてもらっている。月1回ふれあい相談員の方も来設してくれ、お茶を飲みながら楽しく会話したりご指導を頂いている。	
			(外部評価)	
			月に1回、ふれあい相談員の訪問があり、利用者の話を聞いてくれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			勉強会を行い、身体拘束をしないケアに取り組んではいるが、安全性を重視しご家族の方のご理解を得た上で玄関の施錠、センサーも使用している。言葉の拘束には特に気を付けており時に職員間で注意反省を行っている。	
			(外部評価)	
			普段、玄関は施錠しており、必要時に職員が開閉している。玄関の戸が開くとセンサーが反応して、音が鳴るようになっている。	安全を考えての施錠ではあるが、この機会を活かして鍵をかけることの弊害についても点検してほしい。利用者個々が安全で自由に暮らせるよう、ケアの工夫について話し合ってみてはどうだろうか。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)	日頃の何気ない会話の中での言葉が言葉の暴力となっている事がないように職員同士注意しあったり勉強会、新聞等の切り抜きをファイルし、いつでも目を通せるようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)	過去にこの制度を利用された方がおられ、学ばせて頂く機会があった。今後さらに学んで行く必要があると思われる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)	入居時には契約書や重要事項説明書などに沿って説明しご理解頂いた上で契約している。また改定や変更があればその都度新しい書面と口頭で説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)	入居時には苦情相談窓口を書面で知らせ玄関にも提示し意見箱を設置している。面会時の何気ない会話や年1回の家族会では入居者、家族の皆さんと会食しながら意見や要望等聞かせて頂いている。	
			(外部評価)		
				家族来訪時、利用者の暮らしの様子等を報告して、要望等を聞き取っている。又、毎月、「桃太郎だより」と、利用者の様子を記した写真付きの「健康通信」を送付している。年1回の家族会は、食事しながら話し合いを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			管理者は日頃より職員一人一人の意見や要望を聴くよう心掛けている。また月1回のカンファレンスでは職員が意見を出しやすい雰囲気を作るようにしている。	
			(外部評価)	
			月1回、カンファレンスを行い、業務等の伝達や利用者のケアプランの進捗状況について話し合っている。欠席した職員は、記録ノートを必ず確認する仕組みがあり、口頭でも伝えている。職員個々に、目標を決めて年2回自己評価を行っている。その後、管理者と面談を行い、上司からもコメントがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			職員は半年ごとに自己評価し、管理者はその評価をもとに一緒に反省や評価を行う。代表者はその報告をもとに職員の意欲向上に繋がるよう取り組んでいる。	
			(外部評価)	
			職員は半年ごとに自己評価し、管理者はその評価をもとに一緒に反省や評価を行う。代表者はその報告をもとに職員の意欲向上に繋がるよう取り組んでいる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			法人内での勉強会に参加し、また可能な限りで法人外での研修にも参加している。	
			(外部評価)	
			法人内での勉強会に参加し、また可能な限りで法人外での研修にも参加している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			年4回の市内グループホーム交流会には可能な限り出席し交流を行っている。法人内のグループホームとは運営推進会や情報交換、報告等随時行っている。	
			(外部評価)	
			年4回の市内グループホーム交流会には可能な限り出席し交流を行っている。法人内のグループホームとは運営推進会や情報交換、報告等随時行っている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入居前の情報や入居後の生活の中から本人の思いや不安を受け止め、少しずつ信頼関係をつくるよう努力している。	
			(外部評価)	
			入居前の情報や入居後の生活の中から本人の思いや不安を受け止め、少しずつ信頼関係をつくるよう努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族のプライバシーに配慮しながら、ゆっくりお話しする機会をもうけ、次の段階へと繋げるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、家族の話を聴き、支援の見極めを行っている。対応が難しいと思われる際には他の事業所への紹介も行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 人生の先輩として学ぶことも多く、日々の生活の中で教えて頂いたり、助けて頂いたり共に支え合える関係を作っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には本人の様子を伝えたり、何かあればその都度電話連絡している。月1回お便りで日頃の様子など伝えている。家族会では一緒に食事を楽しめるようにセッティングも行っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族や知人がいつでも気軽に訪れやすいような雰囲気作りをしている。週1回のリハビリ受診や外出行事では街並みを見ながら会話をして自分の住んでいた所を忘れないよう支援している。 (外部評価) 妹と文通している利用者は、手紙が届くと返事を出せるよう、職員がサポートをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 食事の準備、片付け、洗濯など日々の暮らしの中で入居者同士が支え合い楽しい日々を送れるよう工夫している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 入院や他施設に入居された時は、出向き様子を聞いたり、その後についての相談にも応じている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 散歩や入浴時など個別対応時に個々の思いをゆっくり聞いたりしている。本人が上手く伝えられない場合には表情等からくみ取ったり、家族からも情報を得るようにしている。 (外部評価) フェイスシートには、本人や家族からの情報や以前利用していた介護事業所からの情報を記入している。又、利用者から得た情報は、年代順に「人生史」としてまとめている。職員は、日々の中で利用者に「何が好き?」「何が食べたい?」「どこへ行きたい?」等と積極的に聞いており、暮らしの中に反映できるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) プライバシーに配慮しながら、本人や家族より色々話を聴かせて頂いている。また入居後にTVや新聞を見て、自分の昔の事を話してくれるのでカルテ記入したりケアプランに反映している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個々の生活リズムやスタイルを様子観察し、一人ひとりの小さな変化に対応できる様にしている。心身状態の変化には要注意し気付いた事は職員間で申し送り、情報の共有に努めている。また本人の残存能力に着目し過介護を避け見守り支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 日々の生活や本人、家族との会話より得た、個々の思いや要望、気づきや変化を話し合い検討して介護計画に反映させている。</p> <p>(外部評価) 家族や本人の意向や希望を踏まえて担当者会議で話し合い、介護計画を立てている。ケアプランチェック表で毎日モニタリングを行い、毎月担当職員が評価を行っており、カンファレンス時に話し合い、見直しにつなげている。カンファレンス記録には、気づきや検討内容を記入している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 他施設のケアの実践結果を主とした個別記録の仕方を参考にし、解り易く記録し職員間で情報共有しケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。また担当を振り分け毎月ケアプランを評価し次のプランに活かしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 本人や家族の「～たい」を大切にし、希望や思いや訴えをもとにしてサービスを取り入れ支援する努力をしている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) ふれあい相談員、ボランティアの方々の来設や買い物や外出、外食を行い楽しく生活を送れるようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人、家族と話し合い運営法人の病院医師がかかりつけ医になっている方がほとんどである。定期健診は必ず職員が同行し家族へ結果報告している。週3回訪問看護、週1回外来リハビリをしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>週3回、訪問看護師の訪問があり、利用者の健康管理をしてくれている。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>週3回の訪問看護時に、体調変化や本人からの訴えを伝え状態を診てもらいアドバイス頂いている。緊急時には併設施設に常駐看護師、協力病院の医師、看護師と24時間対応可能。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>病院に行ったり電話連絡しながら、利用者の状態や今後の流れなど聞き伝え、安心して入院生活を送れるよう情報交換を行っている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営法人の病院や老人保健施設との連携があるため現在看取りは行っていない。</p> <p>(外部評価)</p> <p>入居条件に「歩行可能で家庭用浴槽に入れる方」と明記しており、重度化して歩行が難しくなったら、協力病院や併設の老健施設へ移行することになっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)	
			マニュアルを目の届くところに貼り、日頃より職員間で話し合い緊急時に対応できるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)	
			年2回消防署、地域、併設施設の協力を得て防火訓練。毎月1回利用者、職員で避難訓練を行っている。	
			(外部評価)	
			年2回、運営推進会議時に参加者と一緒に、避難訓練や消火器の使い方の訓練を行っている。さらに、毎月、職員と利用者は併設施設まで避難する訓練を行っている。	火災のみでなく、地震や水害等の災害のいろいろな場面を想定した訓練を繰り返して、さらなる安全と安心の確保に取り組んでほしい。いざという時に、地域の方達と協力し合えるような体制づくりをすすめてほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)	
			入浴や排泄時の対応に気を付け、本人の失敗や間違い等への支援は他者に気付かれないよう行っている。また本人の誇りやプライバシーを損なわないよう気をつけている。	
			(外部評価)	
			昼食の準備時に、盛り付けを担当してくれた利用者「ありがとう」と、笑顔でお礼を伝える職員の様子が見られた。又、裁縫が得意な方が、繕い物を担当してくれている。月2回の「喫茶の日」には、コーヒー、生姜湯、ホットミルク、緑茶の中から利用者の好みの物を選んで楽しめるよう支援している。毛染めの希望があれば、家族にヘアカラー剤を購入してもらい、職員が支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)	
			思いや希望を伝えられるような雰囲気作りを心掛け、会話や態度から思いや希望を探ることのできるような声かけをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)	決まりつつある日課はあるが、本人の体調や意思を尊重しTVを観たり、新聞を読んだり、居室で過ごされたりと自由に過ごして頂いている。散歩や買い物などの要望にも出来る限り対応している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価)	洋服の選択の出来る方には本人に任せ、選択困難な方へは好みの洋服が着れるよう支援している。散髪、毛染めは本人の希望を聞き行っている。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価)	併設施設で調理された副食を職員と一緒に盛り付け、配膳、片付けを行っている。月1、2回の食事作りはメニューを考え一緒に買い物へ出掛けている。外食にも出掛けている。
			(外部評価)	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価)	管理栄養士のもとカロリー計算されたバランスの良い食事を個々にあった形で提供している。水分補給は3食の食事のほか3回のティータイムで摂取せれるほか、居室でも自由に摂取して頂けるようにしている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価)	食後の口腔ケアの声かけや毎日の義歯消毒の実施。歯ブラシ、コップの週1回の消毒。ご自身で行える方には本人に任せ、行えない方へは声かけ、見守りながら介助している。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>個々の排泄パターンを把握しさりげない声かけでのトイレ誘導。ほとんどの方が紙パンツを使用されているが、誘導にて出来る限りトイレでの排泄ができるよう支援している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ほとんどの利用者が、紙パンツにパッドを使用して過ごしており、トイレでの排泄を支援している。職員間でパッドのサイズについて話し合い、変更したような事例がある。誘導が必要な方は、手引き歩行で介助をしている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>自然排便を促すため水分を多めに摂ってもらい、毎日のラジオ体操、運動を行い便秘予防に努めている。</p>	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>週3回以上の入浴を原則とし、行事がない時には主に午前中に入浴時間を設けている。職員が見守る中1対1での会話を楽しみながら、自分のペースで入浴して頂けるように配慮している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>週3回の入浴を支援している。長湯を好む方には、ゆっくり入れるよう支援している。体調等、本人の不安がある場合は、シャワーで支援している。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日中はなるべく活動を促し生活のリズムを整えるよう支援している。体調や体力に応じて休息の声かけも行っている。昼食後は午睡の時間を設けて自由に休息をとって頂いている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価)	
			服薬内容の説明書を個人記録に綴じ、把握確認できるようにしている。内服薬変更時には確実な申し送りを行い、家族にも連絡している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価)	
			個人の得意分野や出来ることを把握し、生き甲斐を持ち楽しく暮らせていけるよう支援している。外食や食事作りでは、食べたい物の希望を聞いている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価)	
			天気の良い日には、散歩や外気浴を行うよう心掛けている。体調に応じて可能な限り全員そろっての外出や外食を行っている。週1回のリハビリ時に個人の買い物希望にも対応している。	
			(外部評価)	
			バラ公園や紫陽花を見に行く等、利用者全員で外出できるよう支援している。新聞のチラシを見て「買い物に行きたい」と希望する方があれば、都合に合わせて個別に支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)	
			自己管理出来る方は、家族と相談し少額のお金を持たれている。現時点では自己管理の難しい方が多く、基本的には預かり金を施設で管理している。月末には金銭出納帳のコピーを家族に送っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)	
			家族や知人に手紙を書いたり、希望者には施設の電話を利用して頂いている。携帯電話使用の方は上手く使用出来ない事多く、職員が間に入り支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 玄関にお花を飾ったり、毎月作るカレンダーを壁面にして飾ったり外出時の写真なども飾って楽しんで頂いている。入居者が家から持ってきた作品も飾らせて頂いている。	
			(外部評価) 玄関前にはアジサイの花が咲いており、玄関にも生けていた。居間には神棚があり、毎朝ご飯を供え、朝食前に全員で手を合わせている。犬を飼っているが、食事時は別室に連れて行っていた。廊下、浴室、脱衣場、トイレには手すりを付けて、利用者が自分の力を使って移動できるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファを置いてゆっくりくつろぎながらTVを観たり、日当たりの良い2階リビングのソファでTV観たり、くつろげるスペースが設けられている。玄関先ではベンチに座り外気浴を楽しんで頂いている。	
			(外部評価)	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 居室は本人、家族と話し合いながら本人の馴染みのあるものや使い慣れたものを持ち込んで頂いている。TVや家族の写真などで居心地良い居場所を作って頂いている。	
			(外部評価) 塗り絵のカレンダーを貼っている。若い頃、自分で作ったちぎり絵の作品を額に入れて飾っている方もいる。いつでもお茶を飲めるよう、コップややかんにお茶を入れて用意していた。テレビを置いていたり、スキンケア用品を備えている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 多くの手すりを設けバリアフリーにて移動しやすく、より安全に暮らせるように工夫している。自分の居室やトイレの場所が分かるよう貼り紙や目印をつけたり工夫している。	
			(外部評価)	